

岐阜市北部でミナミアオカメムシ橙色型を確認

ミナミアオカメムシは、本州南部や熱帯地方に生息するカメムシ科の昆虫で、イネを食害す害虫として知られていた。2005年以降、三重県、愛知県、岡山県、千葉県などで確認され、生息域が北上していることが知られていた。ミナミアオカメムシとよく似たカメムシにツヤアオカメムシ、アオクサカメムシが知られていて、ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの違いは、触覚の第3-5節が褐色か、黒褐色かで見分けることができる。



先日、岐阜市北部に住む方から、大学に珍しいカメムシがいたという連絡があった。理科教材データベースで名前を調べたが、似たものがみつからなかったため、調べて欲しいということだった。電話でどんなカメムシかを尋ねると、赤い色をしていて斑紋はないという。

実際にお会いしてみせてもらおうと、典型的なカメムシ科の昆虫であったが、赤っぽい色をしたものは見たことがなかった。カメムシの仲間には、秋から冬にかけて体色が赤みを帯びるものがあるので、写真を撮って調べることにした。

ミナミアオカメムシには体色変化があることが知られており、橙色型もみられる。アオクサカメムシの可能性もあるので、触覚の色を確認したところ、ミナミアオカメムシと特徴が一致した。

今回の確認で、岐阜県でも生息域を拡大している可能性がある。類似種のツヤアオカメムシも最近よく見かけるようになった。今年は各務原市でも、近年生息域を北上させているムラサキツバメの成虫を確認した。地球温暖化の影響は身近な生物相にも及んでいるようである。